

光明禅寺

第 498 号

令和六年三月

現在に活きる
仏の教え

終わったことは、いい経験をしたということ。苦しみを引きずらないことだね。

今日は雨でも、きっと明日は晴れるよ。明日に希望を持ってー、

なるようになる。心配するな。

「なぜこの道は苦しいの？」

「登っているからだよ」

すべてを賭けてチャレンジしている姿がいい。

目の見える人肉は、見えるという幸福を知らずにいる。

電話 221-4127
(2回線) 5171-0907
7981-9123
FAX 241-3519

(県・市文化財指定安置所)

〒910-0402 指宿市十町南迫田二七六八

三月の行事

一 暁天竺禅会

来一 日曜(三日) 朝六時
初四日曜(二十四日)

一 春のお彼岸法要(中日)

納骨堂 二十日 一時

本堂 二十日 二時

地藏尊・水子供養

二十日 二時

(決算の為に、令和五年度分、護持会費、未納の方は、よろしくお願ひします)
(会費未納の方は、信徒・納められた方は檀家)

合わせる年に彼岸はひらく

人の縁結び直して到彼岸

(心華慈空)「東海林方々著」

岡山県のご位職がお詠みになった一
句です。お彼岸を迎え、家族や
知人が亡き人のために午を合わせる姿
が目につかひます。合掌の温もりは、
ご縁の尊々の自覚となり、共に幸
せでありたいと願う慈悲へと深まりま
す。それが彼岸の成就(到彼岸)であ
り、六波羅蜜の心です。合掌は、人
の縁を結び直し、調える姿でもある
のです。私には、お彼岸のたひ思い生
す合掌の光景があります。今か
ら半世紀の前の話です。私の実家
ではお彼岸になると、小学生は祖母
と共にお仏壇掃除をする決まりでし
た。釜山で働いていた祖母の午はゴツ

ゴツしていました。ご本尊さまを扱う午
はやさしく、ご先祖さまのお位牌の際
は、故人との思いを、お位牌に語
りかけるように話してくれるのでした。
お仏壇掃除は、二人で午を合わせて終
わりです。その時の祖母の口癖が、出雲弁
で「仏さんが見て、こいちようけんな」、標準
語で、仏さまが見てくれたさって、いるからな
というものでした。しかし私は、それが人
間の努力を否定するように聞かえて嫌
いでした。「仏壇を掃除しても、テストで〇
〇点取れないよ」と反抗もしました。やがて
お仏壇掃除をしなくなり、祖母はひとりでお
仏壇掃除をするようになりました。
今、祖母が他界して十余年がたち、子ども
たちに祖母と同じことを言う私がいまも、
祖母が伝えたかったのは、人間の努力には限
界があるし点数で測れないこともある。だ

かうこそ仏さまにお任せして毎日あげめとの
願ひであり、二人で午を合わせた合掌は
折言いの表れだったと思ふのです。道元
禪師さまは「ただわが身をも心をも
はなちわすれて、仏のいへになげいれて、仏
のかたよりおこなはれて、これにしたがひも
てゆくととき、ちかうをもいれず、こころを
もつひやさずして、生死をはなれ、仏と
なる」(正法眼蔵・生死)とお示しになり
ました。何事も、仏さまの教えに任せ
てつとめに向き合う。合掌について言え
ば、午を合わせるのは私でも「私が」とい
うハカライを捨て、相午を想つてすな
おに午を合わせる。それが仏さまにお任
せした姿であり、その時仏さまと私の
違ひはありません。これが、人間の尊さ
です。合掌は仏さまの心、慈心悲心の心
を養います。せいかくのお彼岸です。

ご家族でお仏壇やお墓を掃除し、そ
して、しずかに午を合わせてみませんか。
きっと、仏さまやご先祖さまと共に生き
る元気がいただけることでしょう。

お彼岸の由来

お彼岸は、春分および秋分の日を中日
として、前後三日ずつをあわせた各七日間
をいいます。季節の変わり目にあたり
いのちの尊さや自然の恵みに感謝し
ながらご先祖さまを供養し、ご加護を
願う行事として古くから行われてきま
した。各家庭ではたんごやほたもち、おは
ぎなどをお仏壇に供え、そろってお墓参
りに出かける光景が見られます。私た
ちにとつてたいへんなじみの深い、欠かすこ
とのできない年中行事と言えらるでしょう。
彼岸とは、古いインドの言葉で、修行

の完成を表す「パールミターへ波羅蜜」に由来します。仏教では、私たちが生きてる迷いの世界を「此岸(川のこちら側)の岸」と呼び、おさぼりやとらわれのないさとりの世界を「彼岸(川の向こうの岸)」と呼んで、安らぎの彼岸へ渡ることを願って、仏道修行が行われてきました。そしてこの時期には特に、在家信者も戒律を守り、仏法を聞き、生活を正すという習慣がありました。私たちは、日常の生活に追われ、本当に大切なことを見失ってしまいがちです。お彼岸は、今日は、今日ある自分を育ててくれた祖先さまに思いを寄せると共に、自身自身のいのちの在り方を見つめ直す、大切な期間なのです。

六波羅蜜 空

布施… 限りない慈しみと与える喜びを知る。

持戒… 正しい生活をして自身の完成に努める。

忍辱… 寛容な心を持ち、ものごとにあたる。

精進… 怠ることなく一生懸命努力する。

禅定… 心穏やかにして真理を見極める。

智慧… ものごとの真理を正しく理解する。

訃報

信徒 大牟礼地区の迫ヨシ子様が漏

気療養中でしたが、二月六日88歳をもちて永眠致しました。

ここに故人の御冥福を切にお祈りします。